

道みちを求めもとる

道みちを求めもとる

宗教しゅうきょうにおいて、ややもすると悟りさとを開いたよう
に思おもう人ひとが多おほくいます。よほどの聖者せいじゃでない限り、私わたし
ちはいつも求め続けねばなりません。むしろ、聖者せいじゃで
あり悟りさとを開いた人ひとはその歩みあゆを止めない人ひとかもし
れません。

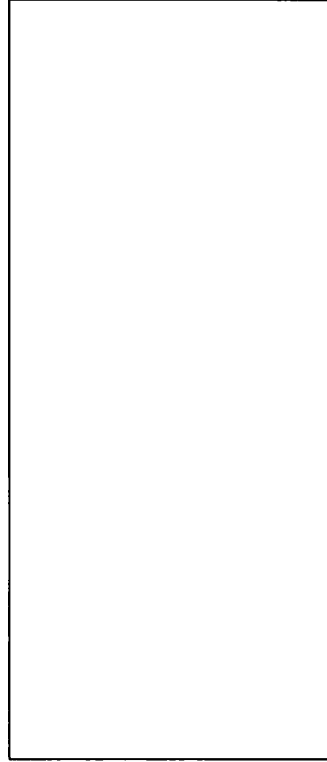
すでに自分じぶんは救すくわれたとか、教おしえを身みにつけたと言い
える人ひとはいません。イエスさまに従したがうというこは、
これこれの教おしえを理り解かいできましたというものではあ

りません。ある意味いみでは、イエスさまと同じ道みちを歩あゆ
むことかもしれない。イエスさまは人ひとの生いき方かたがどう
あるべきかを身みをもつて示しめしました。イエスさまの生い
き方は私わたしたちの行くべき道みちを示しめすものです。

私わたしたちは信仰しんこうというものを安易あんいに考かんがえているの
ではないでしょうか。「人ひとは行おこないによってではなく、
イエス・キリストを信しんずる信仰しんこうによって義ぎとされる」
と言いったのはパウロでした。しかし、そのパウロも常つね
に走はしり続つづけていました。

自分じぶんたちが求め続つづけたいものを考かんがえて、次つぎの空くう白はく

に書いて下さい。



旅する教会

信仰に関しては、一生が求道の生活です。これで

いいという答えはありません。もちろん、その場その

場での答えは必要ですが、それがいつでもどこでも

通用するとは限らないのです。各自の置かれた場で、

それぞれが答えを求めていかなければなりません。

第2バチカン公会議の教会憲章では、「旅する

教会」という表現が使われています。固定した教会

の教えが、現代の色々な問題に対応できなくなり、公

會議は開かれました。教会もまた旅するものなので

す。

